

ハイブリッド式加湿器 KHT-602 / THK-1602

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。

も く じ

安全上のご注意	P. 2~3
各部の名称とはたらき	P. 4~5
使用前の準備	P. 6~7
正しい使いかた	P. 8~10
お手入れと保存	P. 11~13
修理・サービスを依頼する前に	P. 14
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙



仕 様

型 名	KHT-602 / THK-1602
電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	約92W
加湿方式	ハイブリッド式
加湿性能	1時間あたり 《急速》:約550ml / 《強》:約400ml / 《中》:約300ml / 《弱》:約200ml / 《微弱》:約100ml
連続加湿時間	約6.5時間(《急速》運転時)
水タンク容量	約3.8L
電源コード長さ	約1.8m
外形寸法	約 幅34×奥行16×高さ32cm
質 量	約2.4kg
付 属 品	取扱説明書・保証書×1、送風口カバー×1、掃除用ブラシ×1、軟水化カートリッジ×1



- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意









- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)





図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

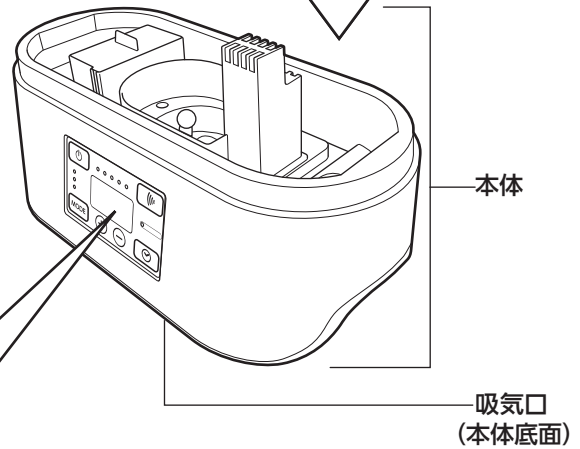
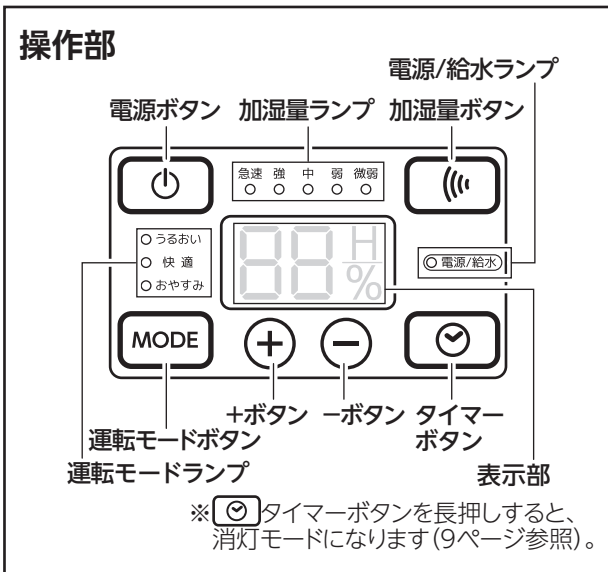
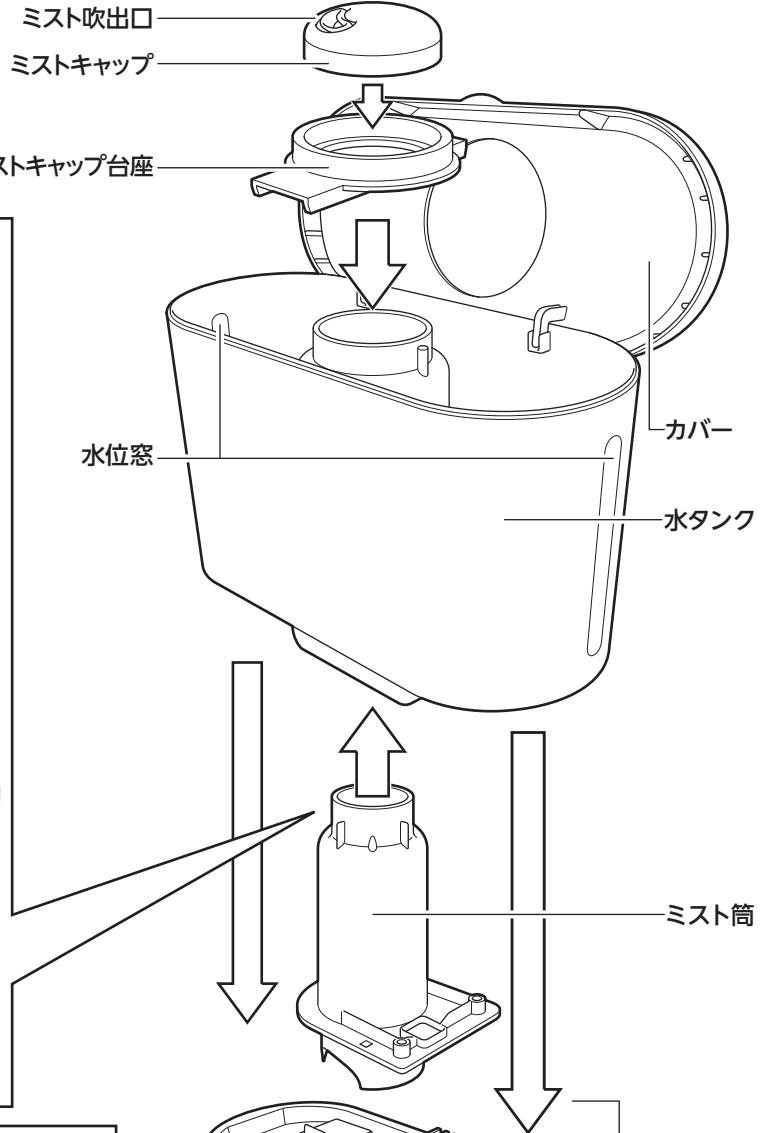
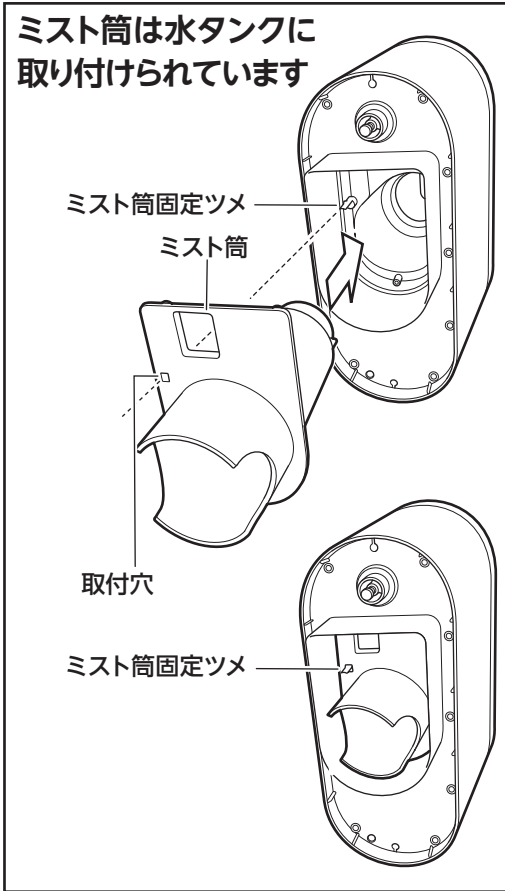
 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。"	 プラグを抜く	使用後は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 火災・故障の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない。 けが・やけど・感電の原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシヤお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
 使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
 指示	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		

⚠ 注意

 禁止	湿度の高いところ(85%以上)では使用しない。 室内を濡らしたり、故障の原因になります。	 禁止	本製品の近くに携帯電話やパソコンなどを置かない。 加湿器の運転中は、加湿器周囲の湿度が高くなりますので、湿気に弱い携帯電話やパソコンなどの電子機器等は加湿器の近くに置かないでください。
	ミストが直接、家具・壁・カーテン・天井などにあたるところで使用しない。 家具・壁に染みがついたり、変形の原因になります。本体を壁、家具、カーテン、寝具などから50cm以上離してご使用ください。		水道水に含まれるミネラル分(カルシウム、マグネシウムなど)がミストと共に空気中に放出され、水分が気化したあと、白い粉状になって室内に拡散されます。人体には無害ですが精密機器、電子機器などの故障の原因になりますので、ホコリや汚れに弱い機器のあるところでは使用しないでください。
	犬やネコなどのペットのためには使用しない。 ペットが本体や電源コードなどを傷め、火災の原因になります。	 指示	電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になります。
	傾いた場所や棚などの高い場所、不安定な場所には置かない。 転倒すると、本体の破損・やけど・けがの原因になります。		本製品を使用しないときは、水を捨てる。 使用しない水をそのままにしておくと、カビや雑菌が繁殖し異臭の原因になります。 使用しないときは、水タンクと水槽の水を捨ててください。
	ミスト吹出口に指を入れない。 けがの原因になります。		水タンクおよび水槽の水は毎日新しい水道水と入れ替える。本体内部は常に清潔を保つよう定期的にお手入れする。 お手入れせずにお使いになると、汚れや水アカにより、カビや雑菌が繁殖し、異臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し健康を害することがあります。この場合は、医師に相談してください。
	ミスト吹出口をふさがない。 変形・故障の原因になります。		本体の水を捨てるときは、排水方向の矢印刻印の方向から捨てる。 他の方向から水を捨てる、送風口に水が入るなど、故障の原因になります。
	水道水以外は使用しない。 一般的に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水を使用すると、カビや雑菌が繁殖しやすくなったり、水アカが多くなったりして、異臭の原因になります。		 注意
	お湯は使用しない。 40℃以上のお湯を使用すると、変形・誤動作の原因になります。	本製品はテレビ、ラジオなどから2m以上はなして設置する。 雑音の原因になります。	
	アロマオイルなど芳香剤を水タンクへ絶対に入れない。 本体の破損・故障の原因になります。	本体を傾けない。 水タンクに水を入れたまま本体を傾けると、水がこぼれる原因になります。	
	本体をカーペットなどの柔らかい繊維の上に直接置いて使用しない。 吸気口がふさがり、故障・水漏れの原因になります。		
お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。			

各部の名称とはたらき

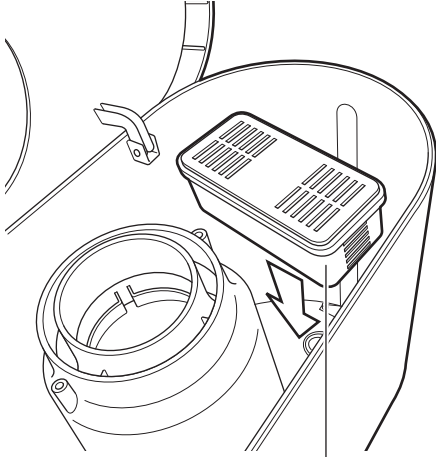
前面



注意 ミスト吹出口から水を入れない。

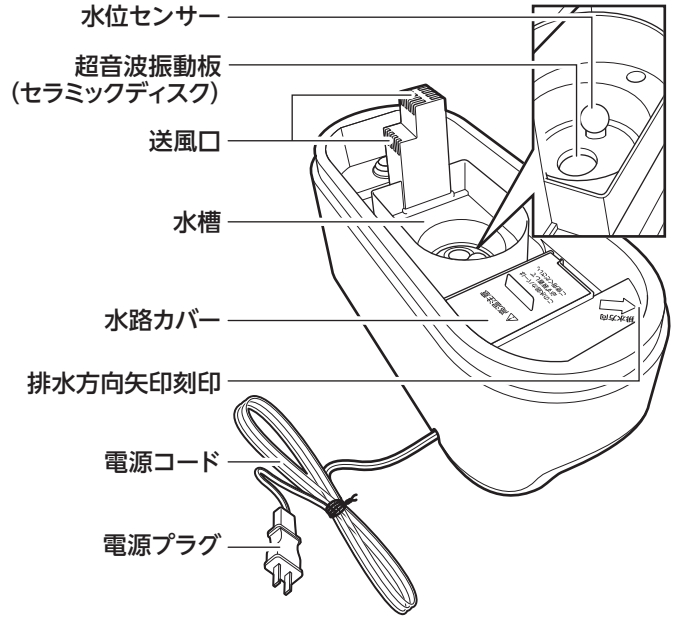
水タンク内部

使用前に水タンク内部に軟水化カートリッジを取り付けてください（6ページ参照）
軟水化カートリッジ裏面には水フィルターを備えています。



軟水化カートリッジ
(水フィルター付)

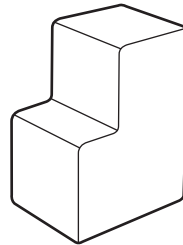
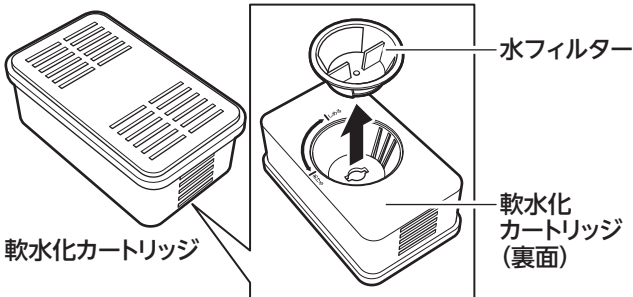
本体内部



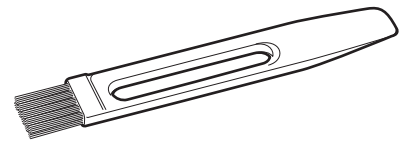
警告

電源コードを束ねたまま使用しない。
電源コードの発熱・発火の原因になります。

付属品



送風口カバー×1



掃除用ブラシ×1

※お手入れのときに使用します



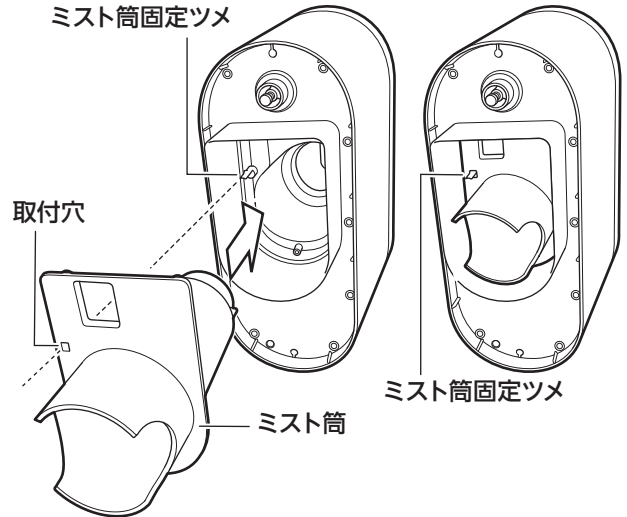
注意

- ・給水・排水するときや掃除をするとき、送風口や各種ボタンに水が入らないようにする。
故障の原因になります。
- ・アロマオイルなど芳香剤を水タンクへ絶対入れない。
本体の破損・故障の原因になります。本製品は、アロマオイルなどを使用することはできません。
- ・本体を移動させる場合は、先に水タンクをはずし、本体の水を捨てる。
水タンク及び本体の水がこぼれる原因になります。
- ・ミストキャップ・ミストキャップ台座・ミスト筒・軟水化カートリッジ・水路カバーを必ず正しく取り付けて使用する。
- ・お手入れするときは、送風口カバーを送風口に取り付けてお手入れする。
お手入れしたあとは、送風口カバーを必ず取りはずしてください。
- ・本体の水を捨てるときは、排水方向から捨てる。
他の方向から水を捨てると、送風口に水が入るなど、故障の原因になります。

使用前の準備

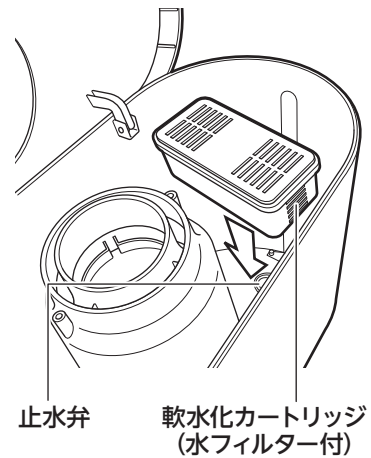
1. 水タンクにミスト筒が正しく取り付けられていることを確認する

水タンクにミスト筒固定ツメで正しく取り付けられていることを確認してください。



2. 水タンクに軟水化カートリッジを取り付ける

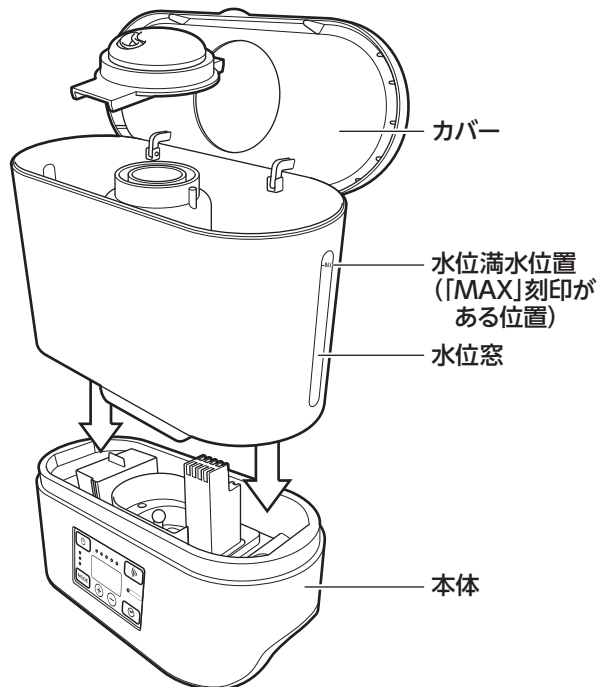
水タンク底面にある止水弁の上ののせるように、軟水化カートリッジを水タンク底面にすき間のないように取り付けてください。



3. 本体に水タンクを確実に取り付け、水平な場所に設置する



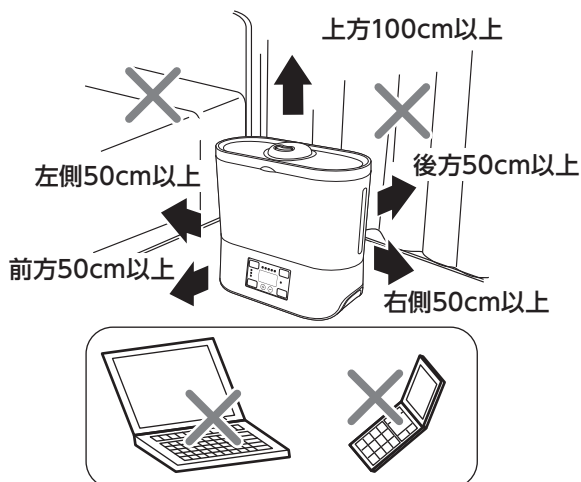
テレビ、ラジオなどから2m以上離して設置する。
雑音の原因になります。



本製品は壁や周囲から適当な距離を保ってください。

本製品の設置は以下の点に注意してください。

- 本製品は壁、寝具、カーテン、家具などから50cm以上離して設置してください。
- ミスト吹出口を壁、寝具、カーテン、家具に向けないでください。
- じゅうたんなど毛足の長い布の上には置かないでください。吸気口がふさがり、本体の故障、周囲への水漏れの原因になります。
- 本製品を使用すると、水道水に含まれるミネラル分などがミストと共に空气中に放出され、水分が気化したあと、白い粉状になって室内に拡散されます。近くに置いた家具や電子機器などに付着し、白い汚れになったり、機器の機能に悪影響を与えてしまいますので、設置場所には十分注意してください。
- 本製品の近くには携帯電話、パソコンなど湿気に弱い電子機器、精密機器は絶対に置かないでください。



4. 水タンクのみストキャップ台座とみストキャップを取り付ける

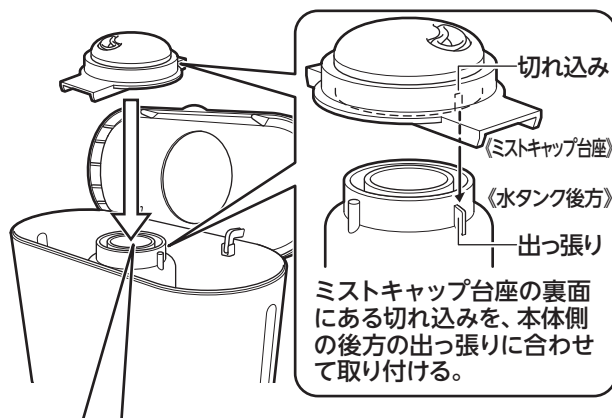
みストキャップ台座とみストキャップを正しく取り付けてください。

※ 給水前に取り付けないと、カバーをしめることができなくなります。

5. 給水し、カバーをしめる

水タンクの上部から、やかんや水差しなどを使用して、きれいな常温の水道水を入れてください。


※ 水を入れる上限は、水タンク水位窓の「MAX」刻印のある位置が水位満水位置です。これより下の水位で使用してください。



注意

みスト筒には水を入れしないでください。水漏れの原因になります。

6. 電源プラグをコンセントに差し込む

 電源ボタンが押されるまで、水は供給されません。水が供給されていない状態では、ブザーが5回鳴り、電源/給水ランプが赤色で点灯します。



注意

電源コードを本体の下に通さない。火災・事故・感電の原因になります。

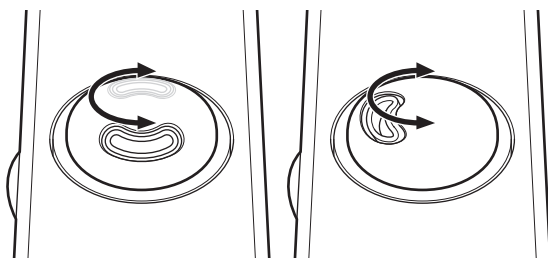


警告

- 電源コードを束ねたまま使用しない。電源コードの発熱・発火の原因になります。
- 外出や本体から長時間離れるときは、電源プラグをコンセントから抜く。事故・火災の原因になります。

みストキャップの回転

みストキャップは180度回転させることができ、みスト吹出口の方向を変えることができます。



正しい使いかた

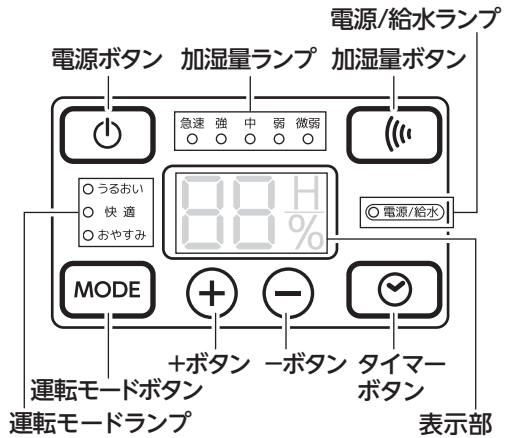
運転の開始／停止

1. 電源ボタンを押して運転を開始する

電源ボタンを押すと電源が入り、表示部に本機で計測された周囲の湿度が表示されます。水タンクから水の供給を開始しますが、すぐに水が行きわたらないため、電源/給水ランプは赤色で点灯したままブザーが5回鳴ります。少し待つと水が行きわたり、電源/給水ランプが緑色に点灯します。

- ・プラグをコンセントに差し、はじめて電源を入れたときは自動運転モード「快適」に設定されています。
- ・すぐに加湿は始まりず、ヒーターがあたたまるまで約2分間経過してから加湿運転が始まります。

操作部



注意

- ・運転中に水タンクを動かすと、安全装置が働いて運転を停止します。
- ・水タンクが確実に取り付けられていないと、電源が入りません。

2. 《自動運転モード》周囲の湿度に合わせて自動で加湿運転させるときは、運転モードボタンを押して、好みの運転モードに切り替える

運転モードボタンを押すたびに、「快適」「おやすみ」「うるおい」の順に切り替わります。

自動運転モードは、モードごとに設定された湿度まで設定された加湿量で加湿し、湿度に合わせた自動運転を行ないます。

- ・詳細は「自動運転モードについて」(10ページ)。

3. 《マニュアル運転モード》周囲の湿度に関係なく、加湿量を調節するには、加湿量ボタンを押して、加湿量を設定する

加湿量ボタンを押すたびに、「急速」「強」「中」「弱」「微弱」の順に切り替わります。マニュアル運転モードは現在の湿度に関係なく、お好みの加湿量を設定することができます。

お好みの加湿量に調節してください。

自動運転モードの設定

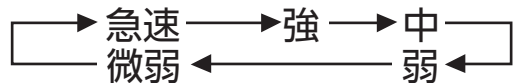
運転モードボタンを押すたびに下のよう切り替わります。



自動運転モード	湿度	加湿量の設定
「快適」	約50~60%	「強」
「おやすみ」	約50~60%	「弱」「微弱」
「うるおい」	約55~70%	「急速」

マニュアル運転モードの設定

加湿量設定ボタンを押すたびに下のよう切り替わります。



加湿量の設定	加湿量
「急速」	約550 ml/h
「強」	約400 ml/h
「中」	約300 ml/h
「弱」	約200 ml/h
「微弱」	約100 ml/h




注意




冬場に就寝する際、暖房器具を止めてしまうと室温が徐々に低下、空気が保水できる量が下がってくるため、加湿器のミストが空気中に拡散されにくくなります。

拡散されないミストは粒のまま自重で落ちて霧雨が降ったように床がしっとりと濡れます。長時間連続くと水漏れしたように水溜りとなることがあります。


冬場の就寝時には、自動運転モードの「おやすみ」、またはマニュアル運転モードの「微弱」にするか、状況によっては使用を停止してください。また、タイマー運転の併用をおすすめします。

4. 切タイマーを設定する



切タイマーを設定するには、タイマーボタンを押して、時間(0H)を点滅表示させ、ボタン・ボタンで切タイマー時間を設定します。

- 1H~8Hの範囲で設定できます。
- 設定すると残り時間と周囲の湿度を交互に表示します。
- 切タイマー時間はいつでも、タイマーボタンを押したあと、ボタン・ボタンで1時間単位で変更することができます。
- キャンセルするときは、「0H」に設定するとそのまま運転を続けます。

5. 運転を停止する

電源ボタンを押すと、表示部と表示ランプが消灯し、加湿運転を停止します。
加湿運転を停止後、約1分間送風運転を行ない、そのあと完全に停止します。


6. 電源プラグをコンセントから抜く

 警告	使用後は電源プラグをコンセントから抜く。 火災・故障の原因になります。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> • 長時間ご使用にならないときは、節電のためにも電源プラグをコンセントから抜く。待機電力が発生しなくなり、省エネになります。 • 運転中に、停電や電源プラグが抜けたときは、始めから操作をやり直す。運転が停止し、すべての設定が解除されます。

運転中に電源/給水ランプが赤色に点灯したとき




電源/給水ランプが赤色に点灯したときは、水タンクの水が足りなくなっていることを示しています。

1. 水タンク、水槽内の水が少なくなるとブザーが5回鳴り、電源/給水ランプが赤色に点灯して加湿運転を停止します。
2. 水槽に残った水を捨てたあと、水タンクを本体に取り付けて新しい水道水を入れてください。
3. 水タンクより本体に水が行きわたりますと、電源/給水ランプが緑色に点灯します。

電源ボタンを押して、運転を開始してください。

- ※ 本体に水が入ったまま持ち運んだり、傾けたりすると、水タンクから水がこぼれることがあります。水タンクは使用する場所で本体に取り付けてください。

切タイマー機能の設定:

タイマーボタンを押して、ボタン・ボタンを押すごとに次のように切り替わります。

8H ↔ 7H ↔ 6H ↔ 5H ↔ 4H ↷
(タイマーOFF)
0H ↔ 1H ↔ 2H ↔ 3H ↷


切タイマー設定後、表示部はタイマーがはたらくまでの時間と周囲の湿度を交互に表示します。時間の経過とともに、切タイマーがはたらくまでの時間の表示が変化します。

8H → 7H → 6H → 5H → 4H ↷
消灯(タイマー作動) ← 1H ← 2H ← 3H ↷

減光モード

本体の操作をしてから約1分経過すると、自動的に点灯しているランプや表示部が減光します。再度、本体のボタンを押して操作が入力されるとともに減光モードが解除され、ランプや表示部の明るさは通常に戻ります。

消灯モード

本体のタイマーボタンを長押しすると、消灯モードが設定され、点灯するランプや表示部を消灯させることができます。再度、本体のボタンを押して操作が入力されるとともに消灯モードが解除され、ランプや表示部が点灯します。


注意

- 本体の水を捨てるときは、排水方向矢印刻印のある方向から捨てる。他の方向から水を捨てると、送風口や操作部に水が入るなど、故障の原因になります。

正しい使いかた (つづき)

自動運転モードについて

MODE 運転モードボタンを押すたびに、「快適」「おやすみ」「うるおい」の順に切り替わります。

- 運転モード設定後は、 タイマーボタンを押して切タイマーを設定することができます。
- 各モードの停止する湿度の設定や加湿量設定などは設定することができません。

■ 《快適》自動運転モード： 湿度を約50～60%に保つ運転

- 加湿量を「強」(約400ml/h) で、湿度約60%まで連続運転し、約60%を超えると運転を停止します(その後1分間送風運転→完全停止)。
- 停止後湿度の監視を続け、湿度が約50%を切ると、約2分後再度運転を開始し、約60%まで運転することを繰り返します。

■ 《おやすみ》自動運転モード： 湿度を約50～60%に保つ運転

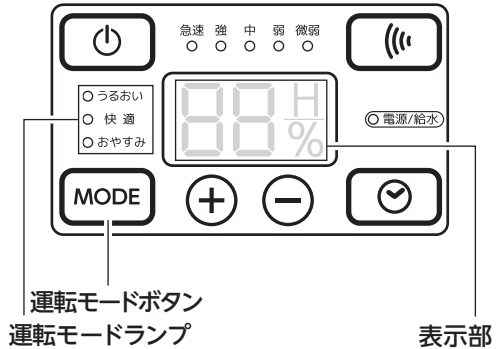
- 加湿量を「弱」(約200ml/h) で、湿度約60%まで連続運転し、約60%を超えると運転を停止します(その後1分間送風運転→完全停止)。
- 停止後湿度の監視を続け、湿度が約50%を切ると、約2分後再度運転を開始し、約55%まで「弱」運転し、約60%まで「微弱」(約100ml/h) 運転、約60%を超えると加湿運転を停止します(その後1分間送風運転→完全停止)。
- 《快適》モードに比べ、「弱」「微弱」で運転するため湿度の上昇には時間がかかりますが、動作音などが少なく静かに運転します。


■ 《うるおい》自動運転モード： 湿度を約55～70%以上に保つ運転

- 加湿量を「急速」(約550ml/h) で、湿度約70%まで連続運転し、約70%を超えると運転を停止します(その後1分間送風運転→完全停止)。
- 停止後湿度の監視を続け、湿度が約55%を切ると、約2分後再度運転を開始し、約70%まで運転することを繰り返します。
- 《快適》モードに比べ、「急速」で約70%まで運転するため、すぐに高湿度が得られますが、動作音が多少大きくなります。

このページでは《自動運転モード》の詳細を説明しています。
通常の《マニュアル運転モード》の使用方法については、8ページをご覧ください。

操作部



 **注意**
現在の湿度が自動運転モードの設定湿度に達していると加湿運転を開始しません。
マニュアル運転モードから自動運転モードに切替えた場合は運転が停止します。

お手入れと保存

警告

- 水タンクを取り出したあと、本体内部の金属部に触れない。けが・故障の原因になります。
- 必ず運転を止め、電源プラグをコンセントから抜いて、本体内部が冷えるのを待ってからお手入れを行なう。感電・やけど・けがの原因になります。
- 清掃後は、必ず各部品を元通りに取り付ける。やけど・けが・故障の原因になります。

本体のお手入れ (週に2回以上)

本体に残っている水をきれいに捨ててください。

※ 水を捨てる時は、必ず本体に表示されている排水方向から捨ててください。

排水方向以外から水を捨てると、送風口に水が入るなど、故障の原因になります。

※ 水を捨て、水滴をふきとり、よく乾燥させてください。

通常のお手入れ

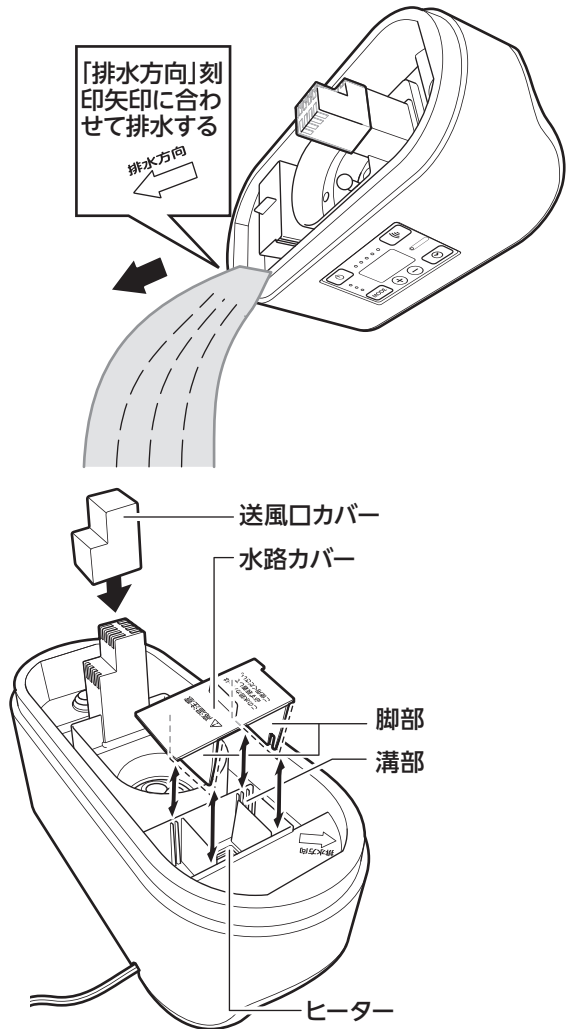
本体の汚れは、ぬるま湯か食器用中性洗剤 (柑橘系を除く) に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因になります。)

- 本体底面の吸気口のココリを掃除機などで清掃してください。
- 水路カバーを取りはずした場合、必ず装着しなおしてください。水漏れの原因になります。
- 水路カバーを正しく取り付けないと、本体よりお湯があふれる原因になります。
- 水路カバー下部脚部 (右図点線部) を本体水路の溝部 (矢印で指し示している箇所) にしっかりと差し込んでください。
- 水を捨て、水滴をふきとり、よく乾燥させてください。

※ お手入れをするとき、オレンジ・ライムなど柑橘系成分の入った食器用中性洗剤を使用しないでください。プラスチックを変色・変質させる原因になります。

「排水方向」刻印矢印に合わせて排水する

排水方向



注意

水路カバーを正しく取り付け使用する。本体より水があふれる原因になります。

お手入れと保存 (つづき)

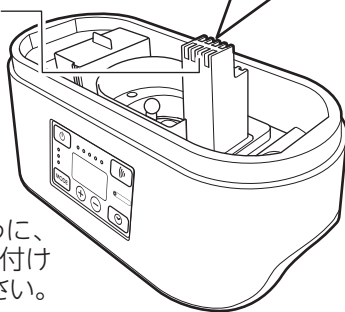
お手入れ時の注意

ここに水を掛けないこと!!

中に水が入ると、ミストを吹き上げるファンモーターが壊れてしまいます。

送風口

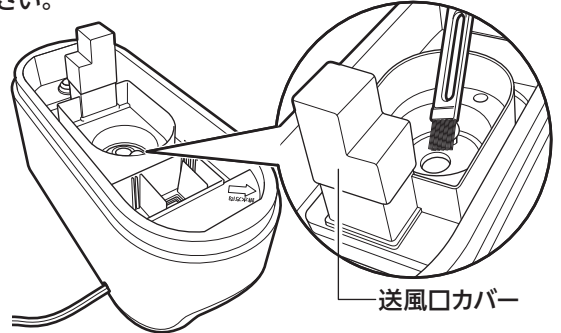
加湿運転時には中にあるファンモーターが回り、送風口から風が出て、発生したミストを上を吹き上げます。お手入れ時に水が入らないように、送風口カバーを取り付けてお手入れしてください。



注意

お手入れ終了後は、必ず送風口カバーを取りはずしてください。

超音波振動板、ヒーター、水槽まわりなどは付属の掃除用ブラシでお手入れしてください。送風口に送風口カバーを取り付けてお手入れしてください。



掃除用ブラシ、送風口カバーはなくさないよう保存し、次回お手入れ時に使用してください。

注意

- ベンジン・シンナーではふかない。変色・変形の原因になります。
- オレンジ・ライムなど柑橘系成分の入った食器用洗剤を使用しない。変色・変形の原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。変色・キズの原因になります。
- 水タンクおよび水槽の水は毎日新しい水道水と入れ替える。本体内部は常に清潔を保つよう定期的にお手入れする。お手入れせずにお使いになると、汚れや水アカにより、カビや雑菌が繁殖し、異臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し健康を害することがあります。その場合は、医師に相談してください。
- 水道水以外は使わない。一般的に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水は水アカが多くなったり、カビや雑菌が繁殖しやすくなります。必ず、きれいな水道水をご使用ください。
- ジュースなどの飲料水、温水(40℃以上)、化学薬品、芳香剤(アロマオイルなど)、洗剤を入れた水などは絶対に使用しない。水タンクや本体が故障する原因になります。

水タンクのお手入れ (週に2回以上)

水タンクの内側と外側をきれいに洗ってください。本体以外、すべて丸洗いできます。6~7ページを参考にミスト筒などを取りはずしてください。

洗って十分にすすぎ、乾燥させたあと、元通りに組み立ててください。

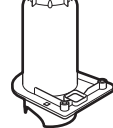
※水タンク内の軟水化カートリッジは、水フィルターを取りはずし、洗剤は使用せず、水洗いをしてください。

まるごと洗えるもの

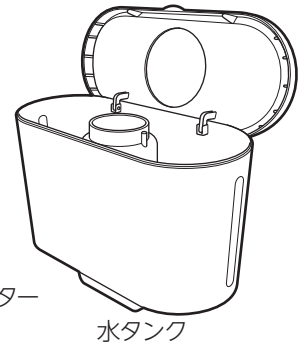
ミストキャップ

ミスト台座

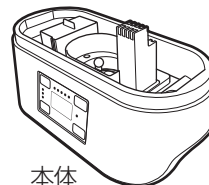
ミスト筒



水フィルター

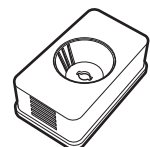


洗えないもの



本体

水洗いのみできるもの



軟水化カートリッジ
(水フィルター以外)

注意

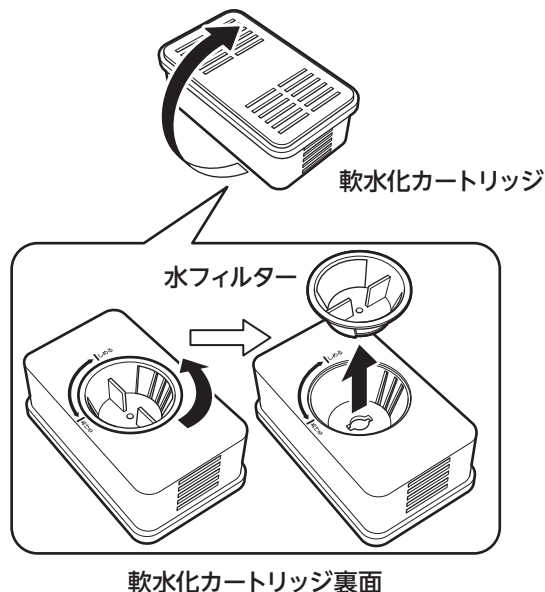
分解したときは、必ず元通りに組み立ててから使用する。故障の原因になります。

水フィルターのお手入れ(水タンク内・軟水化カートリッジ裏面)

水タンク内にある、軟水化カートリッジの裏面には、水フィルターが取り付けられており、水タンクの水はここを通過することにより、本体水槽にきれいな水が供給されます。

水タンクから軟水化カートリッジを取りはずし、右図のように裏面から水フィルターを取りはずして各部を水洗いしてください。

※ 軟水化カートリッジとして使用しなくても、水フィルターはお手入れをする必要があります。



注意
軟水化カートリッジのお手入れには洗剤を使用しない。
軟水化のための内部の薬剤と洗剤が反応して、本来の働きが得られなくなります。

軟水化カートリッジについて

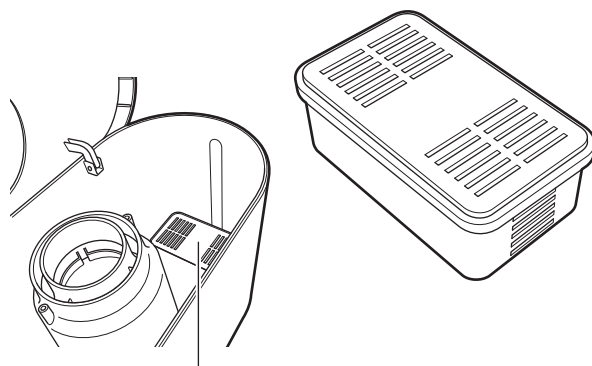
水タンク底面に装着されている軟水化カートリッジは、水の中に含まれるカルキ成分を中和して、水槽内の付着やミストに交じって周囲に飛び散るのを軽減します。

※ 軟水化カートリッジの作用は上記を軽減するものであり、カルキの水槽内付着や飛散をまったくなくすものではありません。

※ 軟水化カートリッジの効果には寿命があります。1シーズン(約半年間)を目安に交換してください。

交換用の軟水化カートリッジWSBX-KHT602は別売しております。3000円(税別)

お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室(➡裏表紙)へお問い合わせください。



※ 使い初めに小さな粒がタンク内に出る場合があります。お手入れの際に捨ててください。

保存のしかた

「本体のお手入れ」「水タンクのお手入れ」に従ってお手入れ・清掃したあと、本体内部の水分をよくふき取り、陰干しして十分に乾燥させてください。ポリ袋などに入れ、取扱説明書とともにお買い上げ時の箱に入れ、湿気の少ないところに保存してください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
電源が入らない	・電源プラグがコンセントに差し込まれていない	電源プラグをしっかりと差し込む
	・水タンクが本体に確実に取り付けられていない	水タンクを確実に取り付ける
加湿しない、または加湿量が少ない	・電源/給水ランプが赤色に点灯している	水タンクに水がない場合は給水する
	・水タンクから本体(水槽)に水が過剰に供給されている	本体(水槽)から水を捨てる
	・超音波振動板(セラミックディスク)が交換時期になっている ※超音波振動板(セラミックディスク)の耐久時間は約3000時間です。	耐久時間を超えるとミストの発生量が少なくなったり、発生しなくなります。超音波振動板(セラミックディスク)の交換が必要です。ドウシヤお客様相談室へご相談ください(交換は有償となります)
	・自動運転モードで設定した湿度に達している	湿度が下がると運転を開始します。または通常モードで使用してください
	・水フィルター・軟水化カートリッジが汚れている	水フィルター・軟水化カートリッジをお手入れする
給水しても電源/給水ランプが赤く点灯する	・水タンクが本体に確実に取り付けられていない	水タンクを確実に取り付ける
	・水フィルター・軟水化カートリッジが汚れている	水フィルター・軟水化カートリッジをお手入れする
	・給水後、電源を入れていない	電源を入れると水タンクから水槽へ水が供給されます。一度電源/給水ランプが赤色に点灯しブザーが5回鳴りますが、少し待つと電源/給水ランプが緑色になります
加湿運転中、時々カタンと異音が出る	・水タンクから水槽に水を供給する際に電磁弁が動作する音です	製品仕様による正常な動作音となります
給水後、カバーをしめることができない	・ミストキャップ台座を取り付けていない	ミストキャップ台座とミストキャップを取り付けてから水タンクに給水する
においがでる	・水道水以外を使用している	水タンク、水槽に残っている水を捨て、「お手入れと保存」に従って掃除する
	・水タンクに水を入れてから長時間経過している	水タンクに残っている水を捨て、「お手入れと保存」に従って掃除する
操作部ランプ・表示部が暗い	・最後に操作してから約1分が経過し、減光モードになっている	⏻電源ボタン以外の操作ボタンが押されると、減光モード・消灯モードが解除され、元の明るさに戻る
操作部ランプ・表示部が点灯していない	・消灯モードになっている	
水タンクにヒビがある	・水タンクにアロマオイルなどを入れている [禁止事項:本製品はアロマオイルなどはご使用になれません]	水タンクにアロマオイルなどを入れると水タンクにヒビが発生します。水タンクを交換してください(交換は有償となります)

長年ご使用の加湿器はよく点検を

このような症状はありませんか?

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状の時は、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシヤお客様相談室に点検をご相談ください。

MEMO

故障・修理についてのご相談に関しては…

【受付時間】 9:00～17:00 (祝日以外の月～金曜日)

ドウシシャお客様相談室

☎0120-104-481

ドウシシャ福井家電カスタマーセンター 〒915-0857 福井県越前市四郎丸町52-5

※ 商品名、品番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願いいたします。

※ お電話をいただいたときにお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。



株式会社ドウシシャ

www.doshisha.co.jp